

新たな利用の窓口 — 国立国会図書館オンライン —

小林 芳幸

Abstract : “National Diet Library Online Search and Request Service (NDL Online)”, which replaces the retrieval and request system “National Diet Library Online Public Access Catalog (NDL-OPAC)”, was launched in January 2018. It also has more functions such as retrieval of digital contents.

In this article, the design concept, the practical method of retrieval and application and other functions of this new integral system are summarized.

I. はじめに

国立国会図書館（以下、「当館」）は、平成30（2018）年1月に「国立国会図書館検索・申込オンラインサービス」（以下、「国立国会図書館オンライン」）を公開した。「国立国会図書館オンライン」は、「国立国会図書館蔵書検索・申込システム」（以下、「NDL-OPAC」）に代わる当館の新たな利用の窓口である。当館蔵書の検索、閲覧・複写・レファレンス等の申込みが行えるほか、国立国会図書館デジタルコレクションや電子ジャーナル・電子ブック等、当館で利用可能なデジタルコンテンツも併せて検索することができる。また、これまで当館ホームページや専用システムで受け付けていたサービスの窓口が統合され、国立国会図書館オンラインから一括して申し込むことができるようになった。



図1 国立国会図書館オンライン (トップ画面)
<https://ndlonline.ndl.go.jp/>

Ⅱ. デザインコンセプト

国立国会図書館オンラインは、当館の登録利用者（機関・個人）に加え、一般のインターネット利用者も対象とし、初めて利用する方にも理解しやすいユーザーインターフェースを目指して以下の理念のもとに設計されている。

1. 国立国会図書館の利用の入口

- ① サービスの入口としてのトップページは、可能な限りシンプルなデザインとする。
- ② 当館のオンラインサービス全体の案内として、トップページに電子情報（各種データベース、契約電子ジャーナル・電子ブック）の一覧を配置する。
- ③ 幅広い利用者を想定して、レスポンシブデザインによるスマートフォン版の画面を提供する。

2. 資料を適確に探し出せる検索インターフェース

- ① 資料群横断的な統合検索フォームを基本とし、検索結果の自由な絞込みと再検索を行うことができる。
- ② 当館蔵書（図書、雑誌、新聞、地図、CD、DVD等（以下「紙媒体等資料」））と当館で利用可能なデジタルコンテンツをま

とめて検索できる。

- ③ 紙媒体版とデジタル版の書誌データの統合や、グループ化表示により、同じ内容が複数の媒体で発行されている資料へのアクセスを容易にする。

3. 利用申込手続の簡便化

- ① 画面上に申込みの専用エリアを設置し、操作に迷わないデザインとする。
- ② 新設のカート機能により、複数の資料の申込みをまとめて行うことができる。
- ③ 申込みが行えない場合、その理由を適確に表示する。
- ④ ログイン中の画面のヘッダーに利用者の申込状況（簡易版）が表示され、利用者はいつでも状況を確認でき、必要に応じて申込・到着状況の詳細画面へ遷移できる。

Ⅲ. 検索対象

国立国会図書館オンラインは、当館所蔵の紙媒体等資料だけではなく、オープンアクセス又は当館が契約した電子ジャーナル・電子ブック、デジタル化資料等のデジタルコンテンツも検索の対象としている。なかでも国立国会図書館デジタルコレクションのメタデータに含まれる目次情報が検索対象となることで、NDL-OPAC に比べると検索対象の範囲は格段に広がったと言える（本誌 pp.15-59 掲載「国立国会図書館オンラインの目次データを使用した資料の検索方法」参照）。

なお、国立国会図書館オンラインの検索対象を当館所蔵資料としたことに対応し、点字図書・録音図書全国総合目録は「国立国会図書館サーチ（以下、「NDLサーチ」）」¹に検索インターフェースを一本化することにしたため、国立国会図書館オンラインでは検索対象外となったが、当館が作製する学術文献録音図書約 3,000 件（平成 30（2018）年 1 月 5 日現在）は、NDL-OPAC と同様国立国会

¹ 国立国会図書館サーチ（NDLサーチ）<http://iss.ndl.go.jp/>

会図書館オンラインでも検索可能である。

● 出版物等（当館所蔵の有体物）	
・ 紙媒体等資料	約1,204万件
図書、雑誌、新聞、地図、CD、DVD、規格・レポート類等	
● デジタル資料（他機関から収集したデジタル化資料含む）	
・ 電子リソース（契約電子ブック・電子ジャーナル等）	約22万件
<u>（うちオープンアクセス 約6万件）</u>	
・ <u>デジタル化資料（国立国会図書館デジタルコレクション）</u>	約 271万件
・ <u>電子書籍・電子雑誌（国立国会図書館デジタルコレクション）</u>	約 102万件
● 主題情報、索引等	
・ <u>目次データ（リサーチ・ナビ）</u>	約 9 万件
・ 雑誌記事索引	約1,271 万件

図2 国立国会図書館オンラインの検索対象²

Ⅳ. 主な機能・画面の紹介

1. 検索画面

(1) 簡易検索画面

- ① トップページにはキーワード検索（簡易検索）が表示される（図1参照）。入力したキーワードが、タイトル、著者、出版者、件名、目次等に含まれる資料を検索できる。
- ② 複数の検索語をスペース区切りで記述すると AND 検索、「OR」や「NOT」で連結すると OR 検索、NOT 検索が行えるほか、「/」、「*」の検索記号を用いて、完全一致検索、前方一致検索の指定ができる（詳細検索画面も同様。）。

² 件数は、平成30（2018）年1月5日時点の国立国会図書館オンラインで提供する書誌データ等の概数。下線で示したデータが、NDL-OPACから国立国会図書館オンラインになって検索対象として追加されたもの。電子リソース約22万件のうち、オープンアクセス約6万件と併せて、体系的な制約から検索対象外となっていた契約電子ジャーナル約10万件も新規に追加となった。

- ③ 詳細検索のボタンをクリックすると詳細検索画面が開く（図3参照）。

(2) 詳細検索画面

The screenshot shows a search interface with the following elements and callouts:

- ① 資料種別選択タブ**: A tab labeled 'すべて' (All) is selected among other options like '図書' (Books), '雑誌' (Magazines), '雑誌記事' (Magazine articles), '新聞' (Newspapers), '和古書・漢籍' (Japanese/Chinese books), '地図' (Maps), '電子資料' (Electronic materials), '障害者向け資料' (Materials for people with disabilities), '映像資料' (Video materials), and 'その他' (Others).
- ② 「複数選ぶ」ボタン**: A button labeled '複数選ぶ' (Select multiple) is located in the top right corner.
- ③ 「検索対象から除く」チェックボックス**: A checkbox labeled '検索対象から除く' (Exclude from search) is located at the bottom left.
- ④ 「項目間 OR 検索」チェックボックス**: A checkbox labeled '項目間OR検索' (OR search between items) is located at the bottom right.

The search form includes fields for 'キーワード' (Keyword), 'タイトル' (Title), '著者・編者' (Author/Editor), '出版者' (Publisher), '出版年' (Publication year) with '西暦' (Gregorian) and '西暦' (Gregorian) options, '件名' (Subject), '分類' (Classification), '原文の言語コード' (Original language code), '設置場所' (Location), and '指定なし' (No specification). There are also checkboxes for '検索対象から除く' (Exclude from search), '雑誌等の巻号' (Magazine volume), '雑誌等の記事' (Magazine article), and '項目間OR検索' (OR search between items).

図3 詳細検索画面

- ① 詳細検索では、検索対象とする資料種別として「すべて」が初期選択されているが、資料種別のタブを選択すれば、資料群に応じた専用の検索も可能となる。
例：地図を「縮尺」で検索
- ② 「複数選ぶ」ボタンを押すと、資料種別を複数選択した上で、検索することができる。
例：「雑誌記事」と「博士論文」を同時に検索
- ③ 「検索対象から除く」チェックボックスを用いて、雑誌等の巻号や記事を検索対象から除外することができる。
- ④ 「項目間 OR 検索」チェックボックスを用いて、AND 検索から OR 検索に変更することができる。

2. 検索結果一覧



図4 検索結果一覧（書誌統合の表示例）

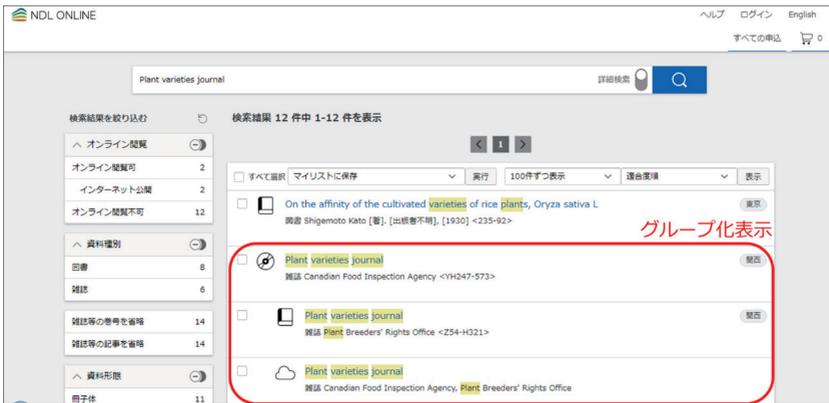


図5 検索結果一覧（グループ化の表示例）

- ① ヒットした検索語がハイライト表示される。本の内容情報（目次、内容細目、あらすじ等）がヒットした場合、ハイライトと併せて、ヒットした単語の前後の文字列が表示される。
- ② 検索結果が多い場合³、画面左側のファセット機能を利用して結果を絞り込む。オンライン閲覧可否、資料種別、資料形

³ 検索結果の表示上限件数は1万件。

態等で絞込みを行うことができる。

- ③ 当館蔵書（紙媒体等資料）の書誌は、関連するデジタルコンテンツが存在する場合、統合されて一つの書誌として表示されるか（図 4 参照：書誌情報の冒頭に本と雲の組み合わせマークが表示されている）、又は関連する書誌と同じ一つのグループとして表示される（図 5 参照：ディスク、本、雲のマークが並んでいる）。
- ④ デジタル化資料が利用可能な場合は、「デジタル」ボタンが書誌情報の右側に出現する。ボタンをクリックすると、国立国会図書館デジタルコレクションに遷移し、本文を閲覧することができる⁴。
- ⑤ 書誌情報を選択して、ダウンロードやマイリストへの追加ができる。ダウンロードのファイル形式には、tsv 形式及び BibTex 形式の 2 種類がある。

⁴ コンテンツごとに設定された公開範囲（インターネット公開、図書館送信、国立国会図書館館内限定）により、閲覧可否が制御される。

3. 書誌詳細

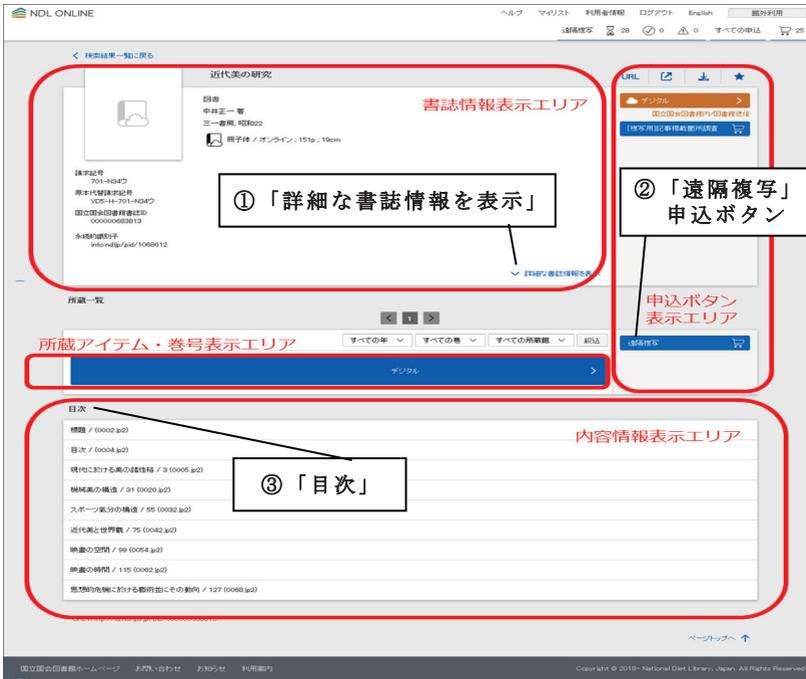


図6 書誌詳細

- ① 検索結果一覧から選択した書誌情報は、基本的な項目だけに限定して表示している。「詳細な書誌情報を表示」を押すと、全ての書誌情報が表示される。
- ② 書誌情報の下にアイテム情報（又は巻号情報）、その右側にそれぞれのアイテム情報で利用できるサービスの申込ボタンが表示される。アイテムを選択して申込ボタンを押すと、申込カートに申込予定のアイテムとして情報が追加される。
- ③ 目次、内容細目、あらすじ等の内容情報が入力されている場合、アイテム情報の更に下方に表示される。遠隔複写申込みで複写箇所を特定する際などに活用できる。

4. 申込カート

図7 申込カート

- ① サービス種別ごとに、申込予定のアイテム情報を100件まで保存できる。情報はログアウトしても保存されるため、一旦申込カートに追加すれば、改めて検索を行う必要はない。
- ② 申込みの上限件数が表示される。上限件数の範囲内であれば、複数の申込みを選択して、まとめて手続を行うことができる。
- ③ 資料や利用者の状況に応じて、その時点での利用の可否に関する注意の文言が表示される。また資料が利用できない場合、その理由が示される。

例：閲覧や複写で利用中等、資料が一時的に利用できない状態である場合

V. 新しいサービス

国立国会図書館オンラインで提供する新しいサービスのうち、代表的なものを紹介する。

1. インターネットを通じた利用者登録（個人向けサービス）

当館の遠隔サービスを利用するための利用者登録手続を、インターネットを通じて行うことができる。国立国会図書館オンライン上でメールアドレスを送信し、所定のフォームに住所、氏名等、登録に必要な情報を入力する。登録完了後は、次のサービスを利用することができる。

① 遠隔複写

複写箇所が特定できている場合に、来館せずに申し込むことのできる複写サービス。

② 閲覧予約（※）

関西館で所蔵する資料を関西館への来館前に出納依頼しておくサービス。

③ 取寄せ閲覧（※）

東京本館又は国際子ども図書館で所蔵する資料を関西館に、関西館で所蔵する資料を東京本館に取り寄せて閲覧するサービス。

④ 複写のための記事掲載箇所調査

複写のために記事や論文の掲載箇所（巻、号、ページ等）特定の調査を依頼するサービス。

※当館内で資料を利用するにあたっては、来館時に本人確認書類を提示し、登録利用者カードの発行手続を行う必要がある。

2. 複写のための記事掲載箇所調査（個人向けサービス）

平成29（2017）年3月まで試行を行っていたサービスで、本格実施に伴い国立国会図書館オンライン上に申込機能を新設した。

複写を希望する論文などの掲載箇所（巻、号等）がわからず遠隔複写を申し込めない場合にご利用いただきたい。なお、国立国会図

書館オンライン上で受け取る調査結果から、遠隔複写申込みに進むことが可能である。

3. レファレンス（各種図書館向けサービス）

これまでの専用システムを通じた申込みから、申込カートの中に申込フォームへのリンクを設けたことにより、国立国会図書館オンライン上で申込みを行うことができるようになった。当館からの回答を国立国会図書館オンラインで受け取ることができるほか、必要に応じて回答に対するコメントを当館調査担当者宛てに送信することができる。また、申込内容（回答を含む）を全て保存するため、レファレンスを申込んだ機関は、自館の過去のレファレンスを任意のキーワードで検索することができる。

4. 英語版の申込画面

NDL-OPAC での英語画面の提供は、検索等ごく一部に限定されていたが、国立国会図書館オンラインでは、申込画面も含め、全ての画面で英語版を提供している。

なお、各種図書館、公文書館、美術館、博物館が提供するデータベースやデジタルコンテンツも含めて検索したい場合は、引き続きNDLサーチが便利である。

また、MARC形式の書誌データダウンロードは、同じく1月にサービスを開始した「国立国会図書館書誌提供サービス（NDL-Bib）」⁵に機能を搭載している（本誌 pp.60-64 掲載「NDL-Bibの概要について—書誌データのダウンロードに特化したサービス—」参照）。それぞれの用途に合わせてサービスをご利用いただきたい。

VI. おわりに

国立国会図書館オンラインは、NDL-OPAC からデザインを一新した。開発にあたっては、デザインの検討をシステム開発とは切り

⁵ 国立国会図書館書誌提供サービス（NDL-Bib） <https://ndl-bib.ndl.go.jp/>

離し、先行して行うことで、システムの複雑化を回避し、幅広い利用者に向けた高いユーザビリティを実現することに努めた。

当館の多岐にわたる資料群や、閲覧・複写・レファレンス等の多様なサービスが、国立国会図書館オンラインを通じて、多くの方により身近なものになることを期待する。親しみやすいインターフェースを目指して、今後も改良を進めていきたい。

(こばやし よしゆき 利用者サービス部サービス企画課)